

武蔵境駅周辺整備計画

武蔵境圏は武蔵野市を構成する3つの駅勢圏の一つです。また、武蔵境駅は、明治22年(1889)に現在の中央線の前身である甲武鉄道が新宿～立川間に開通した時から中野、国分寺と並んで停車場が開設されて以来、平成12年(2000)で112年を迎える歴史のある駅です。

現在の武蔵境は、再開発事業の一つである再開発ビル(スイングビル)の完成や、JR中央線連続立体交差事業にともなう駅舎及び駅周辺の総合的な整備計画により、東の吉祥寺と並ぶ武蔵野市の西の玄関口としてふさわしい「武蔵境らしい魅力あるまちづくり」に取り組んでいます。

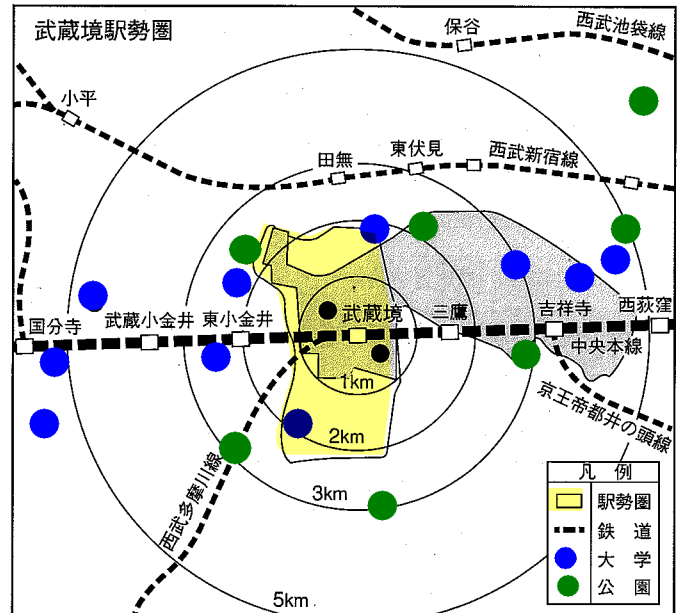
●武蔵境駅周辺の整備構想

[まちづくりの基本理念]

- ・ 駅周辺の活性化を促す「身近で活気ある商業地づくり」
- ・ 良好な住環境を有する「快適な住宅地づくり」
- ・ 災害に強い「安心して生活できるまちづくり」
- ・ これらを基本目標に、吉祥寺や三鷹とは異なる「武蔵境らしさを創出するまちづくりの推進」に努めます。

[まちづくりの基本方針]

- ① 現状の交通環境の改善、防災機能の向上とともに、交通需要や鉄道高架化に対応した駅前広場を含め、駅周辺の総合的な道路整備を図ります。
- ② 都市計画道路の早期実現を図り、骨格道路網の充実と質の向上に努めます。
- ③ 都市基盤を充実させるため、公園および区画道路の整備促進を図り、「緑と潤い」のある環境形成に努めます。
- ④ 周辺にある大規模空地については適正な土地利用による良好な住環境形成、商業地の育成を図ります。



●JR中央線連続立体交差事業

平成6年5月JR中央線三鷹～立川間13.1kmの連続立体交差事業の都市計画が決定され、平成7年11月事業認可を受け、平成7年度より事業着手しました。

総事業費は約1,700億円、高架化の完成は平成18年度の予定です。また、西武鉄道多摩川線の武蔵境駅付近約0.9kmもこの計画にあわせて高架化されます。

●武蔵境駅舎・広場整備計画

JR中央線連続立体交差事業にともなう武蔵境駅舎整備計画を地元住民が主体となり、現在整備計画を検討中です。

また、武蔵境駅北口広場は武蔵境の道路ネットワークを考慮して、本町通りを取り付け道路とし、将来駅勢圏人口をベースにして6,700㎡の広場を計画します。広場での交通処理は、幹線道路による南北通過交通はなく、バスは原則として取り付け道路のロータリー部分に集約化し、タクシーは駅前部分で処理することを検討中です。

●農林水産省食糧倉庫跡地利用計画

平成10年度に取得した農林水産省食糧倉庫跡地の利用計画についても、武蔵境駅南口周辺及び駅舎整備計画と合わせ、武蔵境地区の特性を活かし、水と緑と自然のイメージを取り入れ、南北市街地が一体化するような整備を進めていきます。

●商店街活性化計画

武蔵境駅周辺の商店街は、住宅地の中のコミュニティ型の商店街です。商店街の整備に当たってはこの地域特性を重視し、「身近で歩きながら買い物ができる、青空と広場の中で商品とサービスが提供できる楽しいまち」を目指します。すでに商店街では、まちづくりに対する意思統一を図り、調和のとれたまちづくりを進めることを目的に「街づくり協定書」を定め、道路景観の統一など商業環境整備に取り組んできました。その第一段階として、昭和62年、東京都モデル商店街事業の指定を受け、ショッピングモール(すきっぷ通り)として整備しました。

●市街地再開発事業

駅前西地区を中心に、地域の核となり武蔵野市の顔となるような建物を目指し組合施行の市街地再開発事業により、平成8年6月に11階建ての武蔵境北口地区市街地再開発ビル(スイングビル)が完成し新しい武蔵境のシンボルとなっています。

●中心市街地活性化基本計画

平成10年度には中心市街地活性化法に基づく中心市街地に武蔵境駅を中心とした約70haが指定され、今後おおむね5～10年を目途に行われる駅舎・駅前広場、道路、広場公園等の市街地の整備改善のための事業と、モール化、イベント、ポイントカード事業等の商業活性化のための事業を大きな2つの柱として位置づけ、これらを一体的に推進し、新ためて武蔵境駅周辺地区の総合的なまちづくりを進めていくこととなっています。